



GLORY

GLORY REPORT

グローリーレポート

グローリー株式会社



第**78**期
中間報告書

.....
2023年4月1日から
2023年9月30日まで

TOP MESSAGE

『2023中期経営計画』の
施策を着実に実行し、
次期中期経営計画のスタート
につなげてまいります

代表取締役社長

三和 元純



➡ 2024年3月期上半期の経営環境と業績

当上半期の連結業績は、全ての市場において製品・サービスの需要が堅調に推移し、前年同期に比べ増収増益となりました。

海外市場では、金融市場及びリテール市場ともに、人件

費高騰や人手不足対応に伴うセルフ化ニーズが継続したことに加え、半導体等の部品調達難の緩和による生産の回復に伴い出荷が進んだこともあり、主要製品の販売が増加いたしました。

国内市場でも、金融市場及び流通・交通市場において、2024年7月に予定されている新紙幣発行に伴う製品の

更新や改造作業が当初計画より前倒しで進んでおり、製品売上、保守売上ともに増加いたしました。また、遊技市場では、スマート遊技機向けカードシステムの販売が好調に推移いたしました。

『2023中期経営計画』の進捗状況

コア事業

海外市場では、2021年に買収した米国 Revolution 社とのシナジー創出に向けた取組みに注力し、同社の営業チャネルを活用した当社製品・サービスの販売が拡大いたしました。また、保守センターや生産拠点の当社グループとの統合も進めております。

国内市場では、2024年7月に予定されている新紙幣発行に向け、当上半期より、製品の更新と改造作業が始まりました。需要は下半期にピークを迎え、流通・交通市場及び遊技市場の対応の一部は次期まで継続する見通しです。

新領域事業

海外市場では、ソフトウェア開発力の強化に注力し、本年、ベトナムとインドにソフトウェア開発を行う現地法人を設立いたしました。これら2拠点の人材を活用し、システム製品の機能開発をスピーディーに進めてまいります。

国内市場では、飲食店舗のDXを推進する次世代型飲

食ビジネスソリューション「TOFREE(トフリー)」の展開をスタートいたしました。(詳細はP.5特集をご覧ください) また、2022年に販売を開始したデータ活用サービス「BUYZO(バイゾー)」を用いて、流通店舗で顧客属性分析に基づいたターゲティング広告の配信を行うリテールメディア事業の確立に向けた取組みも進みました。

当期の業績見通し

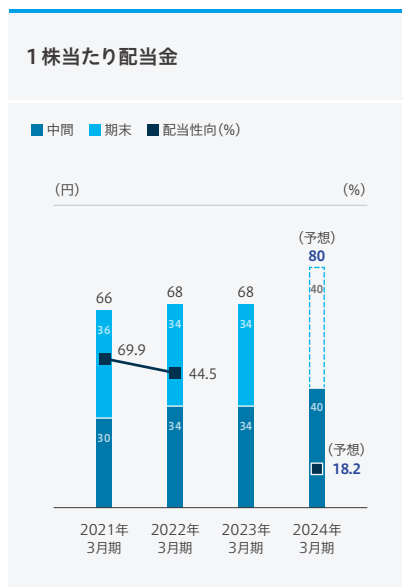
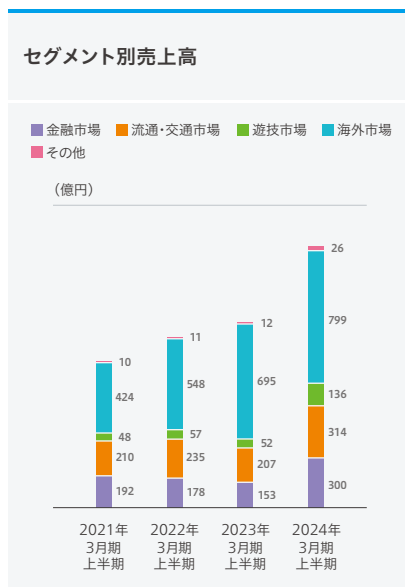
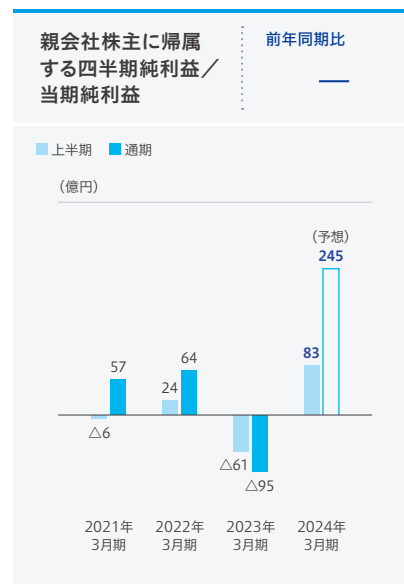
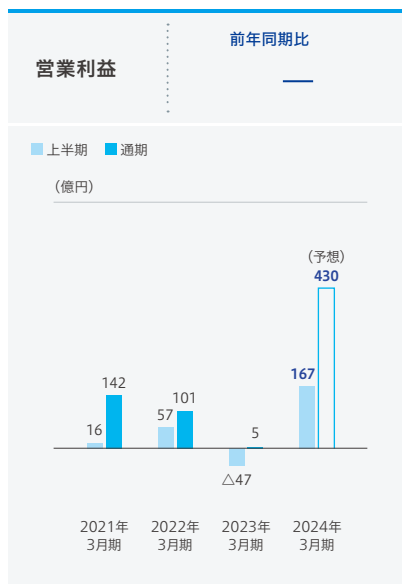
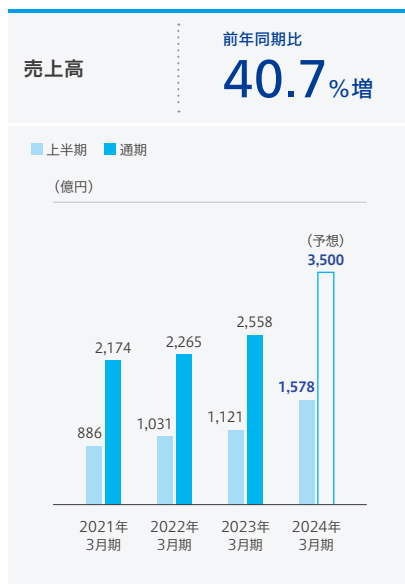
国内外における製品・サービスの販売は順調に推移すると見込んでおり、国内市場においては、新紙幣発行に伴う改造作業の実施件数が想定より増加すると予想しております。

これらの状況を踏まえ、通期業績予想につきましては、当初予想を上方修正し、売上高3,500億円、営業利益430億円、経常利益410億円、親会社株主に帰属する当期純利益245億円といたしました。売上高、利益ともに過去最高となる見通しです。

当社グループは、『2023中期経営計画』の施策を着実に実行し、『長期ビジョン2028』の実現に向けた最終ステップである次期中期経営計画のスタートにつなげてまいります。なお、次期の『2026中期経営計画』は2024年5月に公表予定です。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

財務ハイライト



株主還元について

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけ、将来の事業展開に備えた財務体質の維持・強化を図りつつ、安定した配当を継続することを基本方針とし、『2023中期経営計画』期間(2022年3月期から2024年3月期)の目標値を、当該3期の平均のれん償却前連結配当性向30%以上としております。

本方針に基づき、当期の中間配当につきましては、期初予想に4円を加え、1株につき40円とさせていただきます。期末配当につきましても、期初予想に4円を加えた40円(年間80円)を予定しております。

2023年
4月

AI分野トップレベルの国際会議「ICLR2023」に、 中部大学との共同研究成果論文が採択

当社と中部大学の機械知覚&ロボティクスグループの共同研究成果論文が、機械学習や深層学習の分野において権威ある国際会議 International Conference on Learning Representations (ICLR) 2023に採択されました。AIによる判断の透明性確保のため、利用者へAI推論根拠を説明することが求められるなか、どの画像特徴に基づき画像間が類似していると判断したかを説明できる深層学習モデルを初めて実現した点が評価されました。結果に至るまでの経緯や判断の根拠が説明できる安全性・信頼性の高いAI技術として、社会への貢献が期待されています。



「ICLR2023」にて論文を発表
(当社研究開発センター 鶴飼祐生)

高齢者施設におけるパーキンソン病の 転倒予防に向けた観察研究と 介護業務プロセス改善に向けた取組みを開始

順天堂大学、株式会社サンウェルズと共同で、一般高齢者と比較して転倒頻度が高いとされるパーキンソン病患者に特化した動作分析と、転倒予防方法の確立を目指します。

5月

環境に配慮した投票用紙「LXコート」を 株式会社TBMと共同開発

石灰石を主原料とする「LXコート」は、製造時にパルプや水を使う必要がない上に、燃焼した場合もダイオキシンや塩化水素が発生しないエコな投票用紙です。



サステナ投票用紙「LXコート」



各トピックスの詳細は、
公式ウェブサイト「最新情報」をご覧ください。

<https://www.glory.co.jp/news/>

6月

HDI格付けベンチマーク「クオリティ格付け」で 最高評価「三つ星」を獲得

グループ会社である株式会社グローリーテクノ24のコールセンターは、お客さまからのお問い合わせに対して、「的確な確認によりトラブルシューティングが行えており、解決がスピーディーで顧客の信頼を得られている」として、HDI-Japanより最高評価をいただきました。



7月

医療機関のDXを推進する 診療費窓口支払機 <FCH-950>を発売

医事会計システムとの連携など現場のニーズを捉えた機能を盛り込み、医療事務スタッフの業務負担軽減に貢献します。



診療費窓口支払機<FCH-950>

全日食チェーンとリテールメディア事業で業務提携

全国約1,600店の加盟店による食品ボランティアチェーン本部の全日本食品株式会社と、グローリーのデータ活用サービス「BUYZO Media (バイゾーマディア)」を活用したリテールメディアサービス「全ちゃんメディア」を共同開発し、同社加盟店において展開します。これにより、お客さまのより快適なお買い物体験と、メーカーの商品PRや商品購買の後押しを実現し、マーケティングデータの活用による販売促進のDX化を目指します。

発行のお知らせ

「グローリー統合レポート2023」を発行



今年度は、特集として通貨処理の技術や製品・サービスを活かした新たな事業をご紹介しますほか、「長期ビジョン2028」の実現に向けて何をすべきかを語った、社長と社外取締役の座談会などを掲載しています。

“コア事業と新領域事業のクロス成長” が生み出した新たな事業領域

～飲食店にDXを活用した変革を～

労働人口の減少に伴う人手不足が深刻な課題となっている飲食業界において、DXを活用した変革意欲が高まっています。グローリーは、これまで培ってきた通貨処理技術と新たに獲得したIoT技術を深化させ、オーダーや決済のセルフ化による省人化や、デリバリーやドライブスルーなど多様化する利用客ニーズへの対応といった飲食店の課題を解決に導くソリューションをワンストップで提供しています。



次世代型飲食ビジネスソリューション

当社グループは国内・海外において、飲食店の店舗運営を効率化するソリューションを展開しています。店内で注文する利用客向けには、セルフサービスキオスクやテーブルオーダーシステムによってオーダーや決済のセルフ化を実現し、ドライブスルー利用客に対しては、注文内容を自動表示するシステムを提供するなど、飲食店のサービス形態に応じて包括的なソリューションが提供できることを強みとしています。

Point 1

オーダー・
会計業務の
効率化

利用客によるセルフ運用にすることで、店舗業務を効率化

Point 2

多様な
オーダー方法に
対応

店内オーダーのほか、デリバリー、ドライブスルーなどにも対応

Point 3

キャッシュレス
決済もOK

現金決済のほか、クレジットカードやQRコード決済も可能





アクレック社との協業で セルフソリューションサービスを実現

海外では、2020年に買収したAcrelec社と協働し、飲食店のDXを推進しています。Acrelec社は、ファストフード店のテクノロジーパートナーとしてオーダー・決済・受取・データ活用までをトータルにサポートするソリューションを提供できる点を強みとしています。さらに、当社の現金処理機と組み合わせたセルフサービスキオスクを展開することで、オーダーと決済を無人化し、飲食店業務の効率化に貢献してまいります。



food business DX「TOFREE」

国内では、Acrelec社と共同開発したセルフサービスキオスクに加え、資本業務提携を行っているShowcase Gig社が提供するテーブルオーダーやモバイルオーダーサービスなども組み合わせた次世代型飲食ビジネスソリューション「TOFREE(トフリー)」を展開しています。ファストフード店やカフェ、ラーメン店などさまざまな形態の飲食店において導入が進んでいます。



詳しくはこちらをご覧ください
次世代飲食ビジネスソリューションサイト：

<https://www.glory.co.jp/food/>

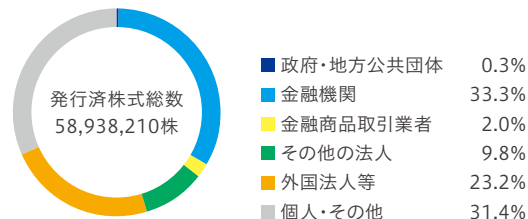


会社情報・株式情報 (2023年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数 (自己株式2,873,306株を含む)	58,938,210株
株主数	11,788名(前期末比1,054名増)

所有者別株式分布状況



会社概要

商号	グローリー株式会社
設立	昭和19年(1944年)11月27日
資本金	12,892,947,600円
従業員数	3,533名(連結11,043名)
本社	〒670-8567 兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号 TEL:079-297-3131(代表)
事業所等	本社・本社工場、東京本部、品川事業所、 埼玉工場、姫路物流センター、他支店等107拠点 グループ会社96社(うち海外80社)
役員一覧	代表取締役会長……………尾上 広和 代表取締役社長……………三和 元純 取締役……………尾上 英雄 取締役……………小谷 要 取締役……………原田 明浩 取締役……………藤田 知子 社外取締役……………井城 謙治 社外取締役……………内田 純司 社外取締役……………イアン・ジョーダン 取締役(常勤監査等委員)……………犬賀 昌人 社外取締役(監査等委員)……………加藤 恵一 社外取締役(監査等委員)……………生川友佳子

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,504	12.7
日本生命保険相互会社	3,427	5.8
グローリーグループ社員持株会	2,696	4.6
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,458	4.2
株式会社三井住友銀行	1,600	2.7
タツボーファッション株式会社	1,500	2.5
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	1,473	2.5
グローリー取引先持株会	1,113	1.9
株式会社三菱UFJ銀行	879	1.5
GOVERNMENT OF NORWAY	806	1.4

(注)上記のほか、当社が所有している自己株式2,873,306株があります。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	6457
公告方法	電子公告によります。 [公告掲載URL] https://www.glory.co.jp
株主名簿管理人/ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
(各種お問合せ先/ 郵便物送付先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL:0120-094-777(通話料無料) 受付時間 9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)
(ウェブサイトアドレス)	https://www.tr.mufg.jp/daikou/

